

学校法人 東放学園

東放学園映画専門学校 殿

2019年度 学校関係者評価委員会報告書

東放学園映画専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【学校運営に関する有識者・委員長】

村山 公士 学校法人東放学園大学 元理事
学校法人東放学園 専門学校東京アナウンス学院 元学校長
学校法人東放学園 専門学校東放学園高等専修学校 元学校長

【関連業界】

大和 靖典 アオイスタジオ(株)スタジオ技術部ポストプロダクション

【高校教員】

大津 俊明 私立立川女子高等学校 教諭

【卒業生】

芦塚 明子 デジタル映画科 卒業生 / 株式会社 コヨーテ所属 / 企画プロデュース室 室長プロデューサー

2. 事務局

関谷 信浩 東放学園映画専門学校 学校長
松島 司 教務教育部 部長
蒲田 直樹 学務管理部 部長
関 賀之 学務管理部 業務主任

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2019年 9月 21日(土) 15:00～17:30 東放学園映画専門学校 1F 就職資料室

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

4. 学校関係者評価結果

【評定内容結果】

- 4 : 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3 : ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 : 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 : 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2018年度重点目標について

重点目標1 中途退学者率を低減させる

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に至らなかった原因を究明し、次年度の対策としていきたい。 ・学生のモチベーションをはかるアンケートの実施、個人面談、ストレス対処法の授業を導入している。 ・留学生に対しては、単なる語学授業を超えて日本文化や慣習を学べる講座を開設し、対応している。 ・就職セミナーを学科ごとに実施し、企業説明会も希望職種に絞り込んだ内容まで拡大している。 	3

重点目標2 進路決定率のさらなる充実

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の進学先など、多様化していく進路に対応していくことが重要である。 ・「JIST」「STAR」などの就職支援システムも充実しており、在学中からインターンシップや学内研修などで学べる環境も整っている。 	4

重点目標3 教職員の資質向上

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の学内研修と役職者による若手職員の授業見学会を実施しており、教職員の資質向上をはかっている。 ・東放学園法人本部主催の教職員研修を定例的に行っている。 	4

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・「TOHOメソッド」による人材育成を目指し、理念・目標計画などが明文化され、それに則した教育活動が行われている。 ・「TOHOメソッド」そのものが学校全体に浸透しているとは言い難い。 ・東放学園ホームページからも見つけにくい場所にあるため、見易さを第一に改善していきたい。 	3

基準2 学校運営

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針、人事、意思決定システム等いずれも文書化等、ルールの遵守がなされている。 ・間接部門のキャリアサポートセンターとの協力により、卒業後の就職支援があることも安心感につながっている。 	4

基準3 教育活動

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定、教育方法の実践、成績評価など正確で丁寧に実施されている。 ・学生個人の作品制作とプラスアルファとして、自信につながるような例えば、「学内資格」として受験及び取得ができればよい。 ・教える側の人材確保も重要であるため、働き易い環境づくりもさらに充実させてほしい。 ・映画科のカリキュラムにProToolsがあるのは、卒業後の志望職種も増え、現場にでてからも有効である。 	4

基準4 学修成果

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・間接部門のキャリアサポートセンターと就職担当者が連携を強めながら、就職率を年々上昇させている。 ・多様化していく映像関係の仕事に従事するには、より一層のマルチな能力が求められるが故、学科横断的な授業展開や卒業生との情報交換や連携も更に充実させていくべきである。 	4

基準5 学生支援

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学生全体に支援が手厚い事がよくわかるが、中途退学に関する対策も含め、学生個人の精神的な面での対応には引き続き、きめ細かい配慮が必要である。 ・学生個々のモチベーション向上につながるような成功体験、発表の場をさらに充実させていくべきである。 ・給付型の奨学金制度がさらに拡充されることをのぞむ。 	4

基準6 教育環境

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・映画VFX専攻科の設置など、時代のニーズに合わせた教育環境を積極的に取り入れている。 ・校舎内のアメニティスペースは、これから入学を希望する学生にとって大きな評価ポイントになるので配慮していくべきである。 ・建物の施設・設備などに、老朽化がみられる。防災に関しては、十分な整備が必要である。 	3

基準7 学生の募集と受入れ

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・広報、募集から入学選考に至るまでしっかりした体制で取り組んでいる。 ・インターネットを含むメディアを利用した募集活動と体験入学の実施方法についても、更なる改善と工夫の余地はある。 ・一般的な職種検索のインターネット画面から、東放学園ホームページにすぐに飛ぶような流れになっているのは良いと思う。 ・オープンキャンパスなどの機会を利用し、学費や奨学金などの内容を対外的にさらに普及・拡大させていく方が良いと思う。 	4

基準8 財務

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学園全体の収支バランスは問題ないといえる。 ・財務状況は健全であり、計画的に運用されている。 	4

基準9 法令等の遵守

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学校設置基準を始めとして、法令を遵守し、各種規程の整備などに全力で取り組んでいることがわかる。 ・万全を期すために、内部だけのチェックだけではなく、今後も外部の評価を取り入れていく必要がある。 	4

基準10 社会貢献・地域貢献

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れについては、定員も制限し、十分な管理体制の中、社会貢献・国際交流を行っている。 ・業界に興味のある入学希望者に対し、作品制作の楽しさなどを紹介できる機会とそのツールがさらに増え、卒業生が業界で活躍することを望む。 	3

5. 所感

<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の未達成項目は、引き続き検討していく事が重要である。 ・学科として初の卒業生を送り出した『映画VFX専攻科』、今後更なる発展が必要であると共に、その広報活動の重要性も理解できた。 ・学校の理念や教育目標は、情報公開を継続していく上でも、よりわかり易く、シンプルに伝えることが重要である。 ・東放学園グループの1校として、エンターテインメント業界で活躍できるクリエイターを今後も期待されていると実感でき、今以上の教育カリキュラムや就職支援は必要であると痛感し、その役割を果たす努力は引き続き継続していく。

以上